資料３－２

みえ森と緑の県民税基金事業の実施後の評価（現行）

平成〇〇年度みえ森と緑の県民税基金事業
事業別評価シート　（様式）

担当部課名	〇〇部〇〇課	
作成年月日	当初	平成　年　月　日
	中間	平成　年　月　日
	実績	平成　年　月　日

【事業概要】

事業実施年度	平成　年度	区分	新規・継続	事業開始年度	平成　年度
事業名					
基本方針区分					
対策区分					
予算額等　年度	平成　年度	平成　年度	平成　年度	平成　年度	平成　年度
予算額（円）					
決算額（円）					
事業の目的					
事業目標					
事業内容					

【中間進捗】

中間進捗状況	※中間報告時点での状況を定量的（又は定性的）に記入する。実績報告時には欄毎削除する。

【実施結果】

区分		実績	備考
事業費（千円）			
事業量	〇〇〇〇（単位）		
	□□□□（単位）		

【事業実施主体コメントと評価委員会の評価】

評価の視点	事業実施主体コメント	評価委員会の評価
有効性	※実績報告時に記入する。	※実績報告後に記入する。
効率性	※実績報告時に記入する。	※実績報告後に記入する。
公益性（波及度）	※実績報告時に記入する。	※実績報告後に記入する。

【評価委員会による総合評価】

評価・提言	※実績報告後に記入する。

【記載要領】※事業別評価シートは次の要領に従って記載するものとする。

記載箇所	記載の内容
事業別評価シートの作成単位	細事業レベルでの作成を基本とするが、より細分化して作成する方が望ましいと考える場合は、細々事業レベルで作成する。
事業別評価シートの作成者	事業の担当課が作成する。
担当部課名	事業の担当部課名を記載する。
作成年月日	「当初」とは当初計画報告、「中間」とは中間報告、「実績」とは実績報告を意味する。報告時毎に作成年月日を記載する。
事業実施年度	当該事業の実施年度を記載する。
区　分	「新規」と「継続」の別を選択する。
事業開始年度	事業の開始年度を記載する。
事業名	細事業名を記載する。なお、細々事業レベルで作成する場合は、細事業名を記載した上で、細々事業名も記載する。
基本方針区分	「1. 災害に強い森林づくり」「2. 県民全体で森林を支える社会づくり」の別を記載する。
対策区分	「1. 土砂や流木を出さない森林づくり」「2. 暮らしに身近な森林づくり」「3. 森を育む人づくり」「4. 木の薫る空間づくり」「5. 地域の身近な水や緑の環境づくり」の別を記載する。
予算額等	年度毎の予算額と決算額を記載する。実績報告時の予算額は最終補正後の予算額を記載する。
事業の目的・目標・内容	事業の目的・目標・内容を簡潔に記載する。詳述する場合は、別添資料に記載する。
中間進捗状況	中間報告時に、進捗状況を記載する。なお、当該欄は、実績報告時には削除する。
実施結果	事業費・事業量について、実績報告時に実績値を記載する。 事業量欄は、事業内容に応じて適宜、増減させて記載する。
評価コメント	事業実施主体コメント：実績報告時に、事業結果を踏まえた事業実施主体のコメントを「評価の視点」毎に記載する。 評価委員会の評価：実績報告時の報告を踏まえて、「評価の視点」毎に評価委員会の評価を記載する。

評価の視点	内　容
有効性	事業結果が、事業の目的に照らして有効であったか。県民にとって有効であったか。
効率性	事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。
公益性（波及度）	事業実施に公益性があったか。事業実施によって、多くの県民が受益したり、関わりを持つといった波及度はどうであったか。
評価・提言	評価委員会による「評価の視点」毎の評価を踏まえて、総合的に記載する。

みえ森と緑の県民税基金事業の評価方法

（1）基金事業の評価方法

県、市町のそれぞれの事業ごとに、各委員が４段階で評価し、その平均値から評価委員会の評価を決定します。

評価の種類とその内容及び点数

評価委員の評価と内容

内 容	評価
取組が優れている	4
継続が妥当である	3
継続は妥当であるが、さらに工夫が必要である	2
現状の取組に改善が必要である	1

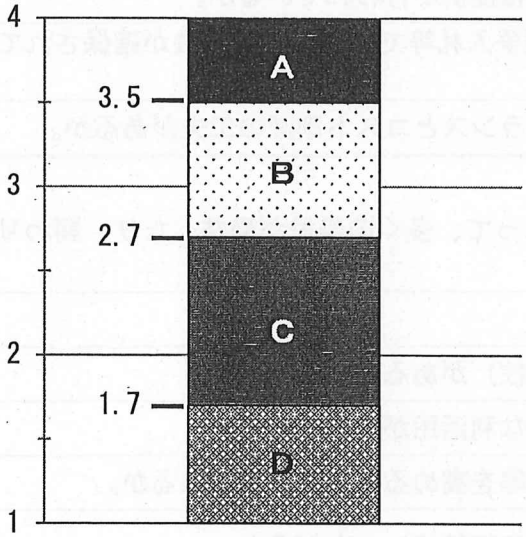
評価委員会の評価と内容

平均値による評価基準		内 容
3.5≦X≦4.0	A	取組が優れている
2.7≦X＜3.5	B	継続が妥当である
1.7≦X＜2.7	C	継続は妥当であるが、さらに工夫が必要である
1.0≦X＜1.7	D	現状の取組に改善が必要である

判定の集計方法

1. 10名の委員の判定（点数）を合計し、平均値をとります。
2. 平均値（右上表）により、判定（A～D）を決定します。

評価委員会評価の幅



A 取組が優れている

B 継続が妥当である

C 継続は妥当であるが、さらに工夫が必要である

D 現状の取組に改善が必要である

4 取組が優れている

3 継続が妥当である

2 継続は妥当であるが、さらに工夫が必要である

1 現状の取組に改善が必要である

（2）評価のポイント

みえ森と緑の県民税基金事業の評価の視点と評価のポイント

視点	分類	評価のポイント
有効性	【事業結果が、事業の目的に照らして有効であったか。県民にとって有効であったか。】	
	事業計画	1）優先度を判断するなど、実施の必要性、計画性が検討されているか。
		2）多くの住民の意見を反映する手法がとられているか。
	事業内容	1）実施にあたり、税のＰＲ、住民への情報提供を行ったか。
		2）住民との連携・協働の手法がとられているか。
	事業効果	1）木材の調達にあたり地域材の使用に配慮しているか。
		2）地域の安全・安心の確保や活性化等につながるか。
		3）教育的な取組等が実施、計画されているか。
	実施後の管理体制	1）事業実施後の効果の持続性は確保されているか。
		2）事業実施後の保全手法、体制が確保されているか。
	住民の反応	1）実施後に住民等の意見を把握するなど効果を確認しているか。
効率性	【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】	
	透明性	1）明確、適正な積算根拠や単価により実施しているか。
		2）事業実施前に必要な情報提供が行われているか。
	公平性	1）複数の見積り徴取や競争入札等で競争性、公平性が確保されているか。
	実施方法	1）費用に対する効果のバランスとコスト削減の工夫があるか。
公益性（波及度）	【事業実施に公益性があったか。事業実施によって、多くの県民が受益したり、関わりを持つといった波及効果はあったか。】	
	受益対象	1）受益人数は妥当か。
		2）幅広い受益（オープン性）があるか。
	多様性、発展性	1）整備した施設等は多様な利活用が期待できるか。
		2）整備した施設等の利用率を高めるための工夫があるか。
	森林を支える社会づくりへの貢献度	1）事業効果が、住民等の意識醸成につながるか。
	整備箇所の転用や目的外使用の規制	1）税投入効果が継続されるような仕組みが確保されているか。
	支援の必要性	1）公的関与の必要性が高いものか。

平成２９年度みえ森と緑の県民税基金事業
事業別評価シート

担当部課名	農林水産部みどり共生推進課	
作成年月日	当 初	平成２９年　８月　１日
	中 間	平成２９年１２月２０日
	実 績	平成３０年　６月　１日

【事業概要】

事業実施年度	平成２９年度	区　分	新規・継続	事業開始年度	平成２６年度
事　業　名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（のうち、対策区分４：木の薫る空間づくり）				
基本方針区分	２．県民全体で森林を支える社会づくり				
対策区分	４．木の薫る空間づくり				

予算額等	年　度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度
	予算額（円）	－	－	－	－	－
	決算額（円）	72,750,950 （ほか基金積立 20,632,418）	163,013,940 （ほか基金積立 25,599,960）	139,143,118 （ほか基金積立 21,207,712）	306,308,124 （ほか基金積立 82,748,840）	－

事業の目的	「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するという「みえ森と緑の県民税」の趣旨に則って、市町が地域の実情に応じて創意工夫して森林づくりの施策を展開できるよう「みえ森と緑の県民税市町交付金」を交付します。
事業目標	－
事業内容	地域の実情に応じて市町が行う以下の対策に要する経費に対して交付金を交付します。 対策区分４　木の薫る空間づくり 木づかいを通じて森林を支えるため、県民の暮らしや公共空間において、建築からエネルギーまで幅広い用途での木材利用を促進するなど、木材と県民との関係を深める対策を進めます。

【実施結果】

区　分		実　績	備　考
事業費（千円）		306,308	ほか、基金積立 82,749 千円
事業量	取組市町数（市町）	24	四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、木曽岬町、菰野町、朝日町、川越町、津市、松阪市、大台町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町、名張市、伊賀市、尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町
	取組事業数（事業）	46	

【事業実施主体コメントと評価委員会の評価】

評価の視点	事業実施主体コメント	評価委員会の評価
有効性	市町民が利用する施設や公園で、地域材を活用し、木質化や木製品を導入しました。この取組とあわせて森林に関するチラシ配布やパネル展示などが実施され、「木を使うことが地球温暖化防止に貢献する」「木を使うことが森を育てる」など、森林の働きや大切さに気づくきっかけとなりました。	B（3.10） 継続が妥当である
効率性	事業費について、公共施設の木造、木質化にあたっては、公共建築物の建設にかかる単価を準用して予定価格を積算し、木製品の導入にあたっては、導入する木製品の仕様を示して見積りを徴取し、積算しました。 また、実施について、競争入札や複数者からの見積り徴取により契約しました。	B（2.97） 継続が妥当である
公益性（波及度）	市町民が利用する集会所や防災倉庫、文化施設などで、木質化や木製品を導入したことにより、多くの市町民が木に親しむきっかけとなりました。	B（2.92） 継続が妥当である

【評価委員会による総合評価】

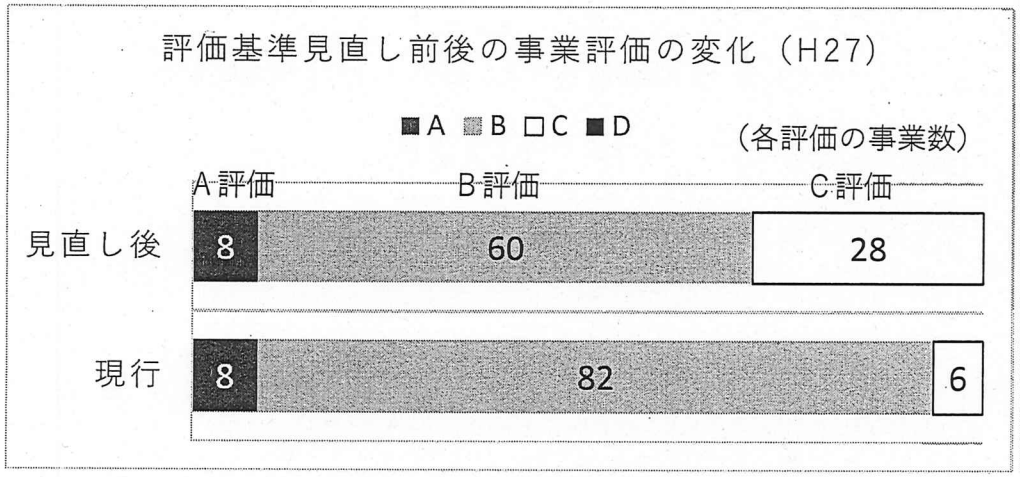
評価・提言

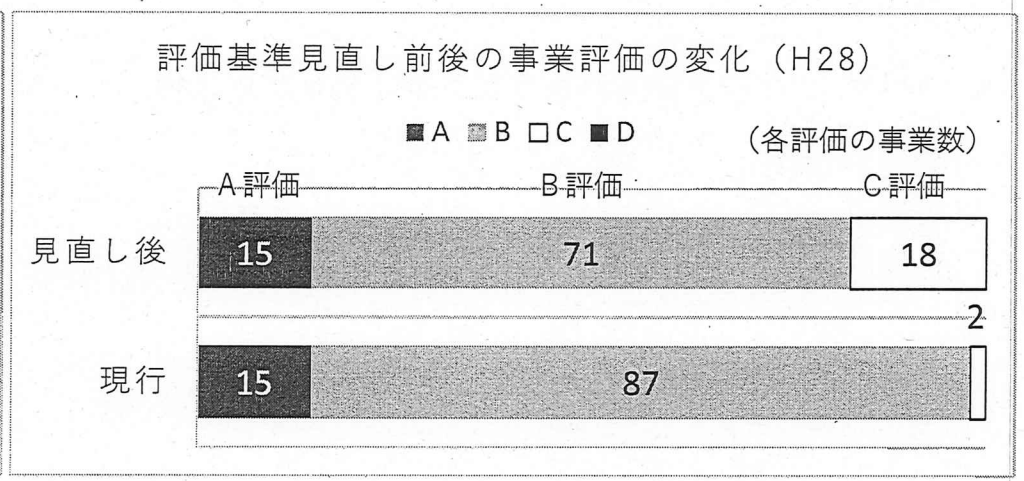
県民の生活に身近な市町の施設や公園などに県産材を活用したことにより、木質の建物や木製品の心地よさが感じられる機会が増え、利用者の意識向上につながっていると評価する。
一方で、単なる施設の木質化や木製品の導入に留まっている事業も見受けられる。
今後は、木の薫る空間が「県民全体で森林を支える社会づくり」につながるよう、さらに木材の良さを積極的に伝えて県民の行動を促したり、森林について学ぶきっかけとしていくことが望まれる。
なお、整備した備品及び施設については、引き続き適正な維持管理に努められたい。

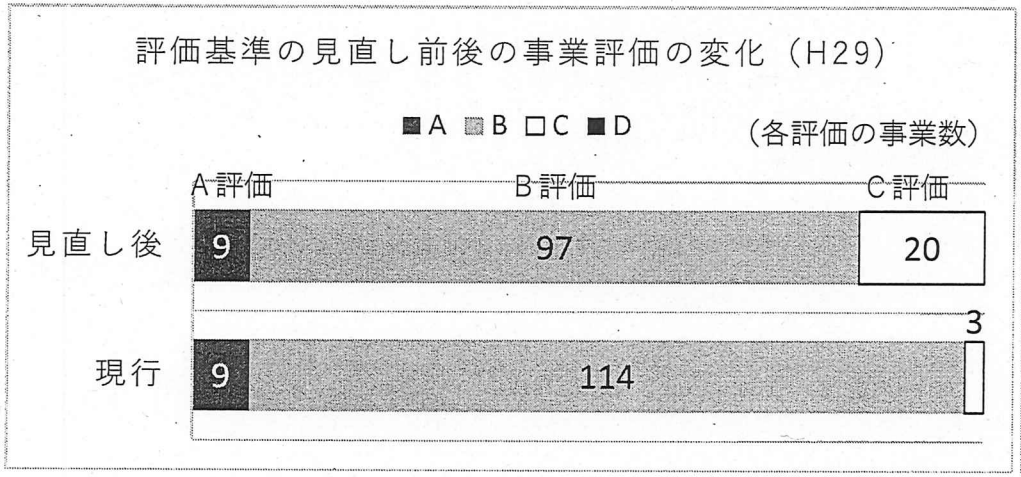
評価基準見直しによるC評価の変化

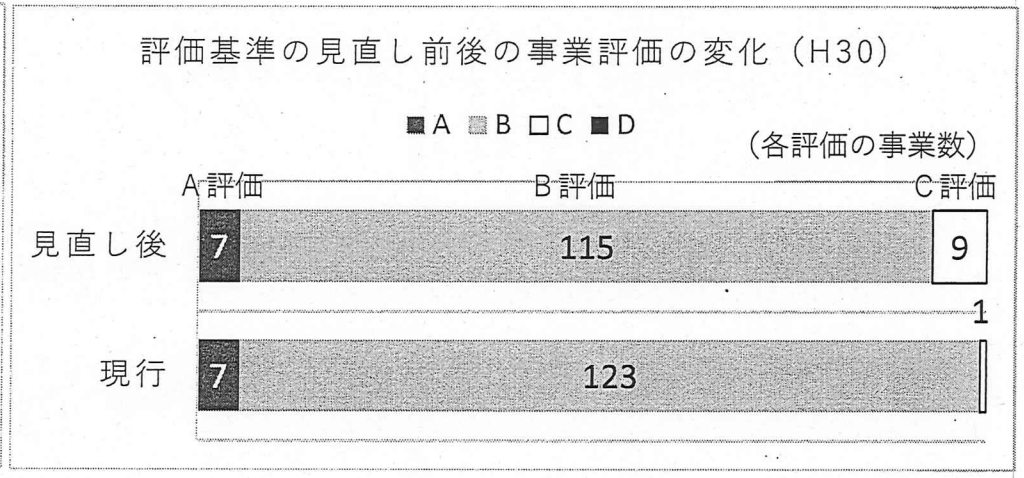
C評価を受けた項目があった事業数と項目数

実施年度	事業数				事業数の割合		評価の視点（項目）数				評価の視点（項目）数の割合	
	合計	評価	現行	見直し案	現行	見直し案	合計	評価	現行	見直し案	現行	見直し案
H27	96	A	8	8	8%	8%	288	A	9	9	3%	3%
		B	**82**	**60**	**85%**	**63%**		**B**	**273**	**243**	**95%**	**84%**
		C	**6**	**28**	**6%**	**29%**		**C**	**6**	**36**	**2%**	**13%**
		D	0	0	0%	0%		D	0	0	0%	0%
H28	104	A	15	15	14%	14%	312	A	17	17	5%	5%
		B	**87**	**71**	**84%**	**68%**		**B**	**293**	**275**	**94%**	**88%**
		C	**2**	**18**	**2%**	**17%**		**C**	**2**	**20**	**1%**	**6%**
		D	0	0	0%	0%		D	0	0	0%	0%
H29	126	A	9	9	7%	7%	378	A	10	10	3%	3%
		B	**114**	**97**	**90%**	**77%**		**B**	**362**	**335**	**96%**	**89%**
		C	**3**	**20**	**2%**	**16%**		**C**	**6**	**33**	**2%**	**9%**
		D	0	0	0%	0%		D	0	0	0%	0%
H30	131	A	7	7	5%	5%	393	A	8	8	2%	2%
		B	**123**	**115**	**94%**	**88%**		**B**	**384**	**369**	**98%**	**94%**
		C	**1**	**9**	**1%**	**7%**		**C**	**1**	**16**	**0%**	**4%**
		D	0	0	0%	0%		D	0	0	0%	0%









1）対象：みえ森と緑の県民税市町交付金事業（H27～H30）

2）事業評価の基準　A：A評価の評価の視点が１つ以上あるもの

B：すべての評価の視点がB評価のもの

C：C評価の評価の視点が１つ以上あるもの

3）評価の視点（評価項目）　『有効性』『効率性』『公益性（波及度）』